

初めての植物観察覚書・夏編 R.1年7月20日開催

この日も、なんとなんと34名もの方においでいただき、賑やかな観察会となりました。最近参加いただく人数がとても多くて嬉しい限りです。夏編としたものの、梅雨も明けず……。かなり蒸し暑い曇天の下、観察会を始めました。

まずは、いつものハナゾノツクバネウツギからです。ここで葉のつき方についてお話するのが、いつものパターン。でも、とても大切なことなのです。続いていつものクスノキで中級クラスの藤園さんから葉の脈やダニ部屋についてのお話をいただきます。その後は、カスケードを登って、久しぶりに満開のムクゲを使ってハイビスカスの仲間の特徴を観察します。雌蕊の周りに雄蕊がブラシ状につくのが特徴でした。もう少し上ると、アカネ科のヤマムグラがあり、田中さんから見分け方についてのお話をいただきました。ナガバタチツボスミレを見ながら階段を登り、広場でお猿の櫛こと、ノグルミを観察しました。ここにはヤブガラシが絡みついていましたので、小川（英）さんに解説いただきました。鳥肢状複葉というのを覚えていますか？カスケードの上まで登り切ると、ヤマノイモの蔓がありました。小川（彰）さんから特徴を説明いただきます。また、ムカゴについて板羽さんから栽培体験のお話をいただきました。撒いてから1年も芽が出てこないとは驚きましたね。

続いて山道に入ります。入口で再びヤマムグラに似たキクムグラを見つけましたので、田中さんから見分け方を教わります。葉の先端が少し飛び出すのが特徴で



ハナゾノツクバネウツギ



クスノキの観察



クスノキのダニ部屋



ムクゲ



ヤマムグラ



ナガバタチツボスミレ



ヤブガラシ



ヤマノイモ

したね。傍らではウバユリが花をつけていました。その下にはセトウチホトギスの苗が育っていましたね。山に入ると、イヌビワが実をつけていました。切り口からは白い乳液が出ていましたね。道端ではホウチャクソウが実をつけていました。今はユリ科ではなくイヌサフラン科になったというお話をしましたね。橋を渡るとドクダミだらけ。意外にも食用になるというお話を参加者の方から伺って、食べ方などを紹介してもらいました。ハーブのように使えるのでしょうかね？ハーブと言えば、和製ハーブの代表ミツバが生えていたので、これも少しご紹介しました。階段のところではタチシノブが綺麗な葉をつけていましたので、シダの葉の構造について説明しました。フモトシダも観ていただきましたが、シダが少しは身近になりましたかね？帰り道では、アオキを観察、藤園さんによればシカの大好物だというお話でした。山を下りたところでは、ヤマモモの樹がありました。徳島の名産品ですね。クサギの葉は、臭いをかいでみました。臭いでしようと言ったところ、案外いい匂いとか？中級クラスの板羽さんから、対生する葉の葉柄に長短がある話を伺って観察してみましたね。その後は、オニヤブソテツのテカテカした葉を見たり、タマガヤツリを採ったりしながら噴水まで戻りました。



キクムグラ



ウバユリ



ドクダミ



タチシノブ



フモトシダ



アオキ



オニヤブソテツ



タマガヤツリ

写真撮影：豊谷千幸さん

この覚書では、初めての植物観察で見られた植物について、備忘録的に記録に止めています。プリント版は、博物館三階のレファレンスルーム内でも配布しています。また、同じものをホームページ <http://museum.tokushima-ec.ed.jp/ibaraki/index.html> 上からダウンロードいただけます。なお、この行事では、中級クラス植物観察会他の皆さんに解説その他ご協力を頂いています。ここに記してお礼申し上げます。

お問い合わせは以下まで。

〒770-8070 徳島県徳島市八万町徳島県立博物館 Tel 088-668-3636 F A X 088-668-7197

茨木靖（いばらぎやすし） ibaragi_yasushi_1@mt.tokushima-ec.ed.jp

徳島県立博物館では、学芸員は交代勤務ですので年末年始以外は、誰かが居ります。植物については私が不在の場合、小川自然課長がいれば、ご質問にお答えできます。お気軽に博物館にご連絡ください。メールも大歓迎です。